

小樽市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況(平成30年度実績)

資料1-1

■平成30年度 教育・保育:「量の見込み」に対する「確保の内容」及び「実施時期」 (※事業計画書中間年の見直し12ページ一部抜粋)

		計画策定時(A)				
		1号	2号	3号	0歳	1・2歳
①量の見込み		1,141	1,322 655	667	223	444
②確保 方策	特定教育・ 保育施設	546	761	715	202	513
	確認を受け ない幼稚園	935	-	-	-	-
	特定地域型 保育事業	-	-	-	-	-
	認可外保育 施設	-	15	39	30	9
	合計	1,481	1,530 776	754	232	522
過不足 (②-①)		340	121	87	9	78

幼稚園 ← → 保育所

		実績(H31.3現在)(B)				
		1号	2号	3号	0歳	1・2歳
		1,070	1,465 774	691	190	501
		546	761	715	202	513
		935	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
		-	0	49	28	21
		1,481	1,525 761	764	230	534
		411	▲13	73	40	33

幼稚園 ← → 保育所

※2号の保育所部分が不足(▲13)しているが、定員弾力化(一定の条件の下での定員を超えての受入れ)を行っている。

		実績(B)-計画(A)				
		1号	2号	3号	0歳	1・2歳
		▲71	119	24	▲33	57
		0	0	0	0	0
		0	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
		-	▲15	10	▲2	12
		0	▲15	10	▲2	12
		71	▲134	▲14	31	▲45

幼稚園 ← → 保育所

平成30年度の取組と今後の事業計画、課題等

保育所部分の利用定員(確保方策)は、平成30年2月に行った本計画の中間年の見直し後、特定教育・保育施設では大きな変更がなかったものの、認可外保育施設(企業主導型保育施設)の定員変更により5名の減少となった。

平成31年3月現在では、幼稚園部分の利用定員1,481名に対し1,070名の利用実績があり、保育所部分では1,525名の利用定員に対し1,465名の利用実績であった。

この結果、幼稚園部分では利用を希望する人数に対して十分な定員が確保されているが、保育所における2号部分では利用定員としては13名不足しており、定員弾力化により受入れが可能となった。

しかしながら、地域によっては定員を超過してもなお特定の保育施設への入所を希望するケースとともに、近年の保育士不足により各保育施設でも入所希望児童数に見合う保育士数を確保できていない状況があり、いわゆる『入所待ち児童数』が平成31年3月1日現在で102名に上っている。この人数を利用実績に加味すると1,465名+102名=1,567名となり、保育所部分については確保すべき定員においても不足していることとなるため、保育所部分の定員の確保に加え、定員弾力化によって受入れが容易となるよう、保育士等の保育従事者の確保に努める必要がある。

なお、今後も、従来型の幼稚園や認可保育所から子ども・子育て支援新制度幼稚園や認定こども園へ移行する施設が増えることが予想されることであり、利用定員の設定については、事業者の意向を確認しながら、令和元年10月からの無償化実施により掘り起こされる新たな保育需要も勘案しつつ進める必要があると考える。